

## 授業概要

他者と共存することは難しい。人間だれしも自分と同じ考え・感性を持った人間とだけ暮らしたいと思うものだ。さりとて、他者を排除することはもっと難しい。となると、他者の考えを把握し、共存するルールを作っていくほかはない。SNS や動画共有サービスによって日常的に他者に触れることが可能な現代には必須の課題と言えよう。

先人たちもまた、同じ課題に取り組んでいた。日本社会と他者との違いは現代のそれよりもはるかに大きかった。本講義では、仏教・儒学・西洋近代思想などの異質な(しかし魅力的な)思想体系に出会った人々が、それをどのように理解したのか。そして、彼らの理解が日本社会に及ぼした影響について講義する。

## 授業計画

第 1 回	ガイダンスー「日本」とは何か
第 2 回	古代思想①ー「日本」の原型
第 3 回	古代思想②ー仏教と律令国家体制の移入
第 4 回	古代思想③ー国家体制の形骸化と末法思想
第 5 回	中世思想①ー武士の登場と「道理」という視点
第 6 回	中世思想②ー危機の中の仏教
第 7 回	近世思想①ー武士の世の道德とキリスト教との対峙
第 8 回	近世思想②ー「危険思想」の魅力
第 9 回	近世思想③ー近代の萌芽と儒学の革新
第 10 回	近世思想④ー新学問の形成
第 11 回	近代思想①ー開国と乱世的革命
第 12 回	近代思想②ー西洋の衝撃と「文明」構想の諸相
第 13 回	近代思想③ー対外戦争と国家主義の台頭
第 14 回	近代思想④ー2つの世界大戦とデモクラシー
第 15 回	近代思想⑤ー戦後民主主義の理想と現実
第 16 回	学期末試験(筆記)

## 到達目標

- ・ 外来思想の日本への受容過程を理解する。
- ・ 仏教、儒学、キリスト教などの外来思想を育んだ社会と日本社会の歴史的相違点と共通点を理解する。

## 履修上の注意

- ・ 履修に際して、専門的な知識は不要である。
- ・ 遅刻の有無は成績に影響しないが、平常点はコメントカードの内容で評価する。
- ・ 騒音・食事など講義の妨げになると思われる場合は退出を命ずることがある。なお、「講義の妨げになる」か否かは講師が判断する。

## 予習復習

本講義の性質上、日本史について高校教科書などを用いて予習することが望ましい。また、講義後は以下に示すテキストとノートを照らし合わせながら読解することで、高い学習効果が得られるであろう。

## 評価方法

筆記試験 80 点。平常点 20 点。平常点について：講義ごとに意見・感想を書いたコメントカードの提出を求める。提出されたものの内、講義に資すると思われるものは次回講義の冒頭で紹介する。1 回紹介されるごとに平常点 2 点を加算する。単に出席するだけでは成績に結び付かないので、留意すること。

## テキスト

講義ごとに資料(プリント)を配布する。

また、参考テキストとして

『日本思想史ハンドブック』 荻部直・片岡龍編 (新書館,2008,ISBN:978-4-403-25094-1)

『概説：日本思想史』 佐藤弘夫・平山洋編 (ミネルヴァ書房,2020,ISBN:978-4-623-08832-4)

『日本思想史への道案内』 荻部直 (NTT 出版,2017,ISBN: 978-4757143500)

などを用いるので、各自で適宜参照すること。